

Lib.

ISSN 0287-976X



Keep Innovating.

京都産業大学図書館報

Vol. 42, no. 1 (Apr. 8, 2015)

● 特集!

中央図書館開館 1 万日記念

2015年 2月15日、開館 1 万日を迎えました

● 図書館利用者アンケート結果速報!

● ブック・ツイート 2014年度入賞作品発表!

中央図書館開館 1 万日記念 特集	2-4
図書館を賢く使ってください。	5
第5回 京都産業大学図書館 利用者アンケートを実施して	6-9
2014 年度 ブック・ツイート大賞入賞作品発表!	10-11
情報の探し方 No. 25	12
ビブリアたいむず	13
今をキャッチ。 鈴木 雅恵	14
自著を語る 伊吹 勇亮	15



ようこそ1万日を迎えた 「バベルの図書館」へ



図書館長 井尻香代子

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。入試を終えてほっとしておられるところだと思いますが、これから社会人として巣立られるまでの四年間、それぞれの学部でどれだけの知識、見識、スキルを獲得されるか、あらたなステージが既に始まっています。これから何を学び、そして目の前にどんな展開が待っているのか、皆さん一人一人が自分で決めることになる、高校までとは全く違った、あらたなステージです。

とはいえ、何をどうすれば良いのか不安を抱えている方も多いでしょう。科目をどう選択したら良いのか分からない。高低差のあるキャンパスの中に多くの建物が建っていて、道に迷う。足が疲れても休むところも分からない。そんな時、まず図書館があることを思い出して下さい。図書館はバス乗り場からごく近い、静かで快適なスペースです。その上、世界中のあらゆる知識がここにあり、あらゆる目的へのアクセスが開かれています。本や雑誌が選べる、読める、映画やドキュメンタリーのDVDが見られる、分からないことは調べられるし、係の人に聞ける。そして目当てのものが見つかったら、心行くまで味わえる気持ちのよい隠れ家になります。本学中央図書館は今年2月に開館1万日を迎えました。人間なら27歳4カ月と15日だそうです。何でも教えてくれる先輩に是非会いに来てください。

ところでタイトルにした「バベルの図書館」*とは何でしょうか。アルゼンチンの国民的作家、ホルヘ・ルイス・ボルヘスは、「バベルの図書館」と題した不思議な短編を書いています。その図書館の本当の名前は「宇宙」で、各階は中心に通気口を持つ六角形をしています。通気口には低い手すりがあり、覗くとどこまでも続く上階と下階が見えます。六面の壁のうち五面にはそれぞれ五段の本棚があり、各本棚には同じサイズの32冊の本が収まっています。残りの一面は階段に続く通路になっており、図書館員が立ったまま眠る小部屋とトイレが左右にあります。全ての本は410ページで、各ページは40行、1行は80文字です。全ての本は25の記号、つまり、スペース、句点、読点、22の文字からなっていますが、ここには、その全ての組み合わせがあり、したがって古今東西のあらゆる本が所蔵されています。

この作品は、私たち「人間」を「図書館司書」に、人間の住む「世界」を「図書館」に喩えた美しく豊かなメタファーになっています。日本文化にも造詣の深かったボルヘスには、他にも幻想的な短編が多くあります。これまで出会ったことのない不思議な世界へ足を踏み入れて下さい。京都産業大学バージョン「バベルの図書館」でお待ちしています。

*「バベルの図書館」の短編は『伝奇集』ボルヘス 著；篠田一士訳、集英社、1984（963||BOR 地下1階）に収められています。

〈2015年2月15日〉 京都産業大学 中央図書館は 開館1万日を迎えました

1987年10月1日、現在の中央図書館が開館しました。ここでは図書館建設前から開館後の懐かしい写真や記事で当時を振り返ってみましょう。

写真①：本山広場に中央図書館の建設を計画。(1982年)

写真②：1985年11月に起工。建設中の中央図書館。(1986年)

写真③：1987年3月に竣工。図書館の周りはまだ殺風景なもの。(1987年)

写真④：1987年10月1日、中央図書館が開館した様子を1面で報じる『京都産業大学報』。(1987年10月22日付)

写真⑤：中央図書館の建物が、第29回建築業協会(BCS)賞を受賞。(1988年)

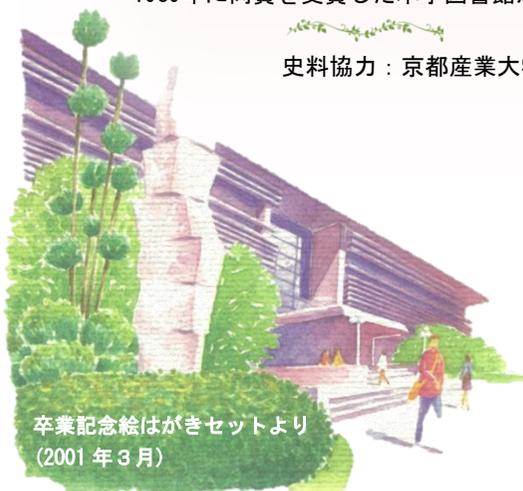
写真は当時記念に作製されたテレホンカード。

写真⑥：第5回日本図書館協会建築賞優秀賞を受賞。写真の『京都産業大学報』の記事には「この賞は、わが国の図書館建築としてすぐれているとともに、サービスの点においても高い水準にある図書館に授与されるものである。」と記載。(1989年11月27日付)

写真⑦：『日本図書館協会建築賞作品集1985-2006：図書館空間の創造』(012|NIH 2階)

1989年に同賞を受賞した本学図書館が掲載。

史料協力：京都産業大学 大学史編纂室



⑦



中央図書館開館1万日記念特集

図書館にまつわるエトセトラ

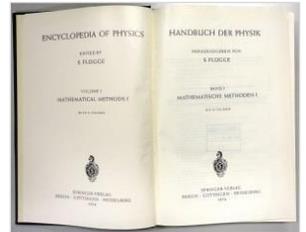
1965年4月、今から50年前の京都産業大学開学の時点では、独立した図書館の建物は無く、本館3階に図書室(名称は図書館)が設置されているのみでした。その後、各学部に図書室が開設されていきましたが、各図書室を統合する形で、開学から22年目にして現在の場所に中央図書館が建設されたのです。



開学当初の図書館の様子

はじまりの1冊

図書館の資料には1冊ごとに「資料ID」が付与されています。図書館では、このIDにより資料を管理していて、資料の表紙または裏表紙の下部に貼付されているバーコードが「資料ID」を表しています。最初に付与した「00000001」から運用され、現在では「01280000」を超えています。これは現在までに図書館で受け入れた資料が128万冊以上*となることを意味しています。ちなみに「00000001」は『Mathematische Methoden = Mathematical methods』というドイツ語の資料です。(右写真)



*除籍(資料の所蔵記録を抹消すること)処理などがあるため、蔵書数とは一致しません。

本を探そう

図書館の資料は「分類番号順」に書架に配架しています。「分類番号」はその本の内容によって決まり、現在はNDC(日本十進分類法)新訂9版に基づいて付与されています。資料の背表紙下部に貼付されているラベルに、000番から900番台までの3桁の数字が印字されています。小数点以下の数字で更に細分化することもあります。数字には意味があり0は「総記」、1は「哲学」、2は「歴史」、3は「社会科学」、4は「自然科学」、5は「技術」、6は「産業」、7は「芸術」、8は「言語」、9は「文学」と定められています。図書館では原則として、このうち人文科学系の分野である「0~2、7~9」を2階(ラベル下部の表示はC2)に配架し、社会科学・自然科学の分野である「3~6」を3階(ラベル下部の表示はC3)に配架しています。



参考図書
のシール

上部の数字
が分類番号



前8桁が資料IDを表します

ゼロからはじまる図書館

前述したID「00000001」の資料の分類番号は「420.3」で物理学の参考図書を意味しています。しかしこの資料に関しては「4・自然科学」ですが3階には並んでいません。というのは、ラベル下部に「B2-R」と印字されていて、B2=地下2階にあることを示しているからです。図書館の建物は地上1階から3階と地下1階から2階の5層構造になっています。どの階においても資料は分類番号順に並んでいます。

皆さんが資料の貸出・返却に利用されている「メインカウンター」と資料の並びの位置関係を右図のフロアマップにてご紹介しましょう。資料は原則、黄色いエリアに分類番号順に並んでいます。青いエリアは「参考図書」や「文庫本」などを別置してあるコーナーです。

ちなみに現在、2階のいちばん最初に並んでいるのは002||ABEというラベルの『「教養」とは何か』(阿部謹也著1997年講談社刊)となっています。実はこの資料は地下1階にもう1冊所蔵しているのですが、地下1階(B1)でも先頭に並んでいます。もちろん、他の階でも、別置のエリア内でも、必ず分類番号が早い順に並んでいます。雑誌に関しては少しだけ分類体系が異なりますが、やはり0から順に並んでいるのです。



図書館を賢く使っていただきます。

～その5 マイライブラリーの使い方～



マイライブラリーをご活用ください！

Web上で貸出の更新*、利用状況や予約の確認などができます。スマホからでもOK！

* 貸出の更新は、Web上では3回まで。以降は2階メインカウンターで受け付けています。他の利用者から予約が入っている資料は更新できませんのでご注意ください。

第 5 回

京都産業大学図書館利用者アンケートを実施して

利用環境の改善を目的に、利用者の皆さんにアンケート調査を実施しましたので、概要を報告いたします！詳細な報告は、図書館Webサイトへの掲載を予定しています。

調査期間：平成26年12月1日～13日

調査方法：図書館入館者へのアンケート用紙配布およびPOSTによるWebアンケートで実施

回答件数：1,372件(Webアンケート913件、アンケート用紙459件)

要望・提案など

開館日・開閉館時間について

常時日祝日開館にしてほしい。時間も常時21時まで開館して欲しい。

来館者の増える定期試験期間中でも入館・在館者調査では、日祝日及び20時～21時の利用者は極めて少ない状況です。恒常的に開館した場合に必要な維持費(光熱水費)も大きな負担となります。また、授業・課外活動とあわせ、午後8時を終了時間としています。これらのことから今のところこれまでどおりの開館時間とします。

貸出期限の延長・更新

貸出更新の延長回数を増やしてほしい。

更新は、予約が入ってなければできません。Webでの更新は3回までですが、メインカウンターに本を持参すれば、回数に関係なく更新できます。

延滞した場合いつから借りることができるようになるかを確認できるようにしてほしい。

マイライブラリー、または、メインカウンターで確認ができます。

館内静寂について

定期試験期間は非常に話し声が目立つので、特に館内静寂の徹底してほしい。

定期試験期間等、館内入館者が多い時期は、館内巡回の回数を増やしています。

館内静寂の徹底には、なによりも利用者の皆さんの協力が必要不可欠です。

グループ学習室において目的外使用で騒がしく飲食している場合があるので注意してほしい。

図書館内では静粛に！が大前提です。

ルールを守り、他の利用者に迷惑をかけないことです。迷惑な行為を見かけた場合は、図書館スタッフに連絡してください。

飲み物について

ペットボトル等蓋付きの飲物は許可してほしい。館内での飲物を許可してほしい。

お茶などの飲み物が館内で認められるといいなと思う。

飲食は大切な資料・設備の汚損につながることから、1階休憩室でお願いしています。

皆様のご協力をお願いします。

パソコン利用と増設

個人研究室へパソコンを設置してほしい。

貸出用パソコンを導入してほしい。

パソコン室のパソコンの台数を増やしてほしい。

グループで利用するための貸出用パソコンを用意しています。メインカウンターで、グループ学習室の利用申込とともに、パソコンの貸出も受け付けますのでご利用ください。

それ以外の場所へのパソコンの設置・増設は、大学全体の情報環境整備(パソコン等の設置)計画も踏まえて検討していきます。

パソコン室の娯楽目的による長時間利用は遠慮してほしい。

パソコン室で友達同士で話しているグループをよくみかけます。

図書館パソコン室は、自習利用専用の情報処理教室という位置付けです。学生の皆さんも、共同で使用する施設であるということを認識して、他の利用者のことを思いやり、マナーを守って利用してください。迷惑な行為を見かけた場合は、図書館スタッフに連絡してください。

コンセントの使用

こっそり充電をしている人がある。コンセントにカバーをかける等すべきではないか？

ノートパソコンを充電できるスペースがほしい。

持参したパソコンを使用する場合のコンセント使用は認めています。充電のみを目的とした使用は、認めていません。ご理解ください。

小説・文庫本の充実

文庫本を増やしてほしい。

読みたい小説が少ない。

小説をもっと増やしてほしい。

これらの要望については、文庫コーナーの拡張も含めて、今後の検討課題とします。

指定図書について

英語多読の貸出期間を延ばしてほしい。

利用者が多いことから、指定図書については貸出期間を短く設定しています。

皆さんのご理解をお願いします。

多読本のあまりにも汚い本を、新しくしてほしい。

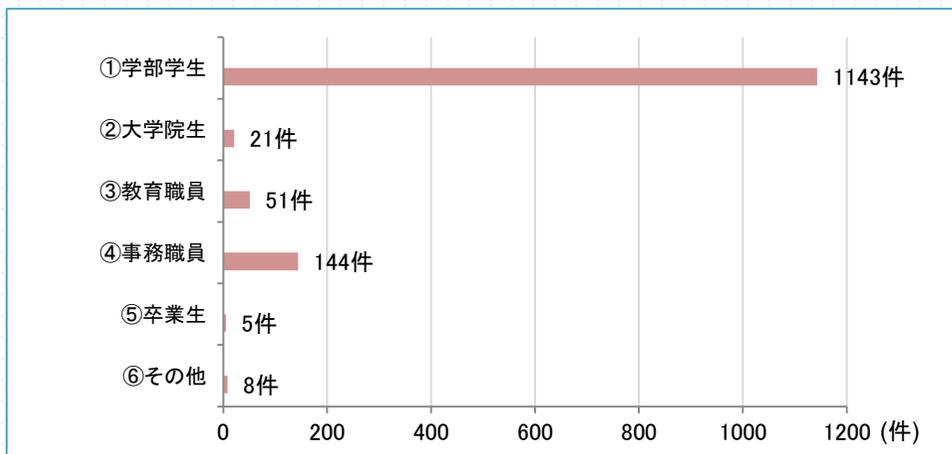
可能な限り要望に沿うようにしたいと思います。



こんなご意見も・・・

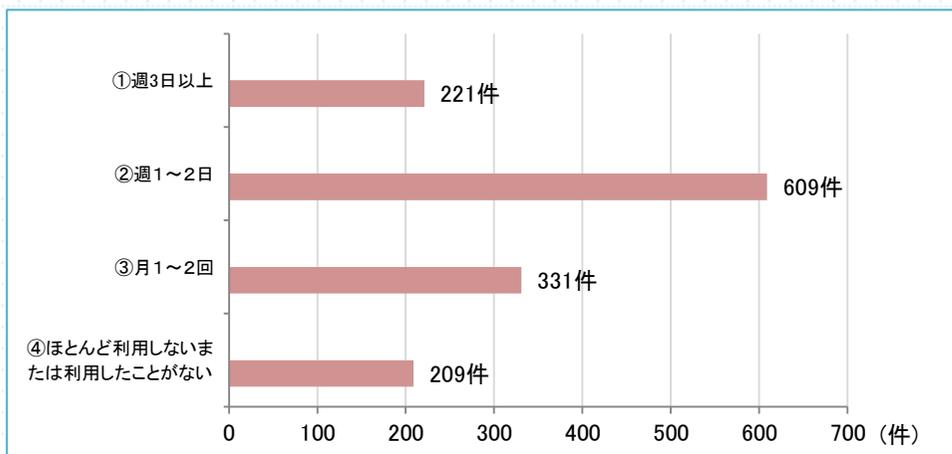
- ・資料を運ぶ籠があればいいと思う。
- ・閲覧席の座席数を増やしてほしい。
- ・文庫コーナーの所に、椅子を置いてほしい。
- ・無線LANをもっと安定的に飛ばしてほしい。

回答者の内訳：Q1. 身分についてお聞きします。



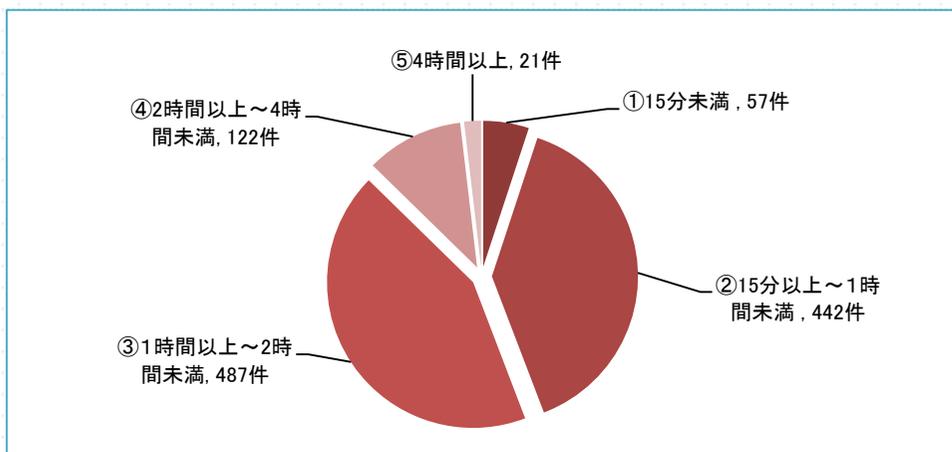
回答者の約8割が学部学生でした。なお、「その他」としては、一般の利用者の方々から8件の回答がありました。

利用頻度：Q2-1. あなたはどのくらい図書館を利用しますか？



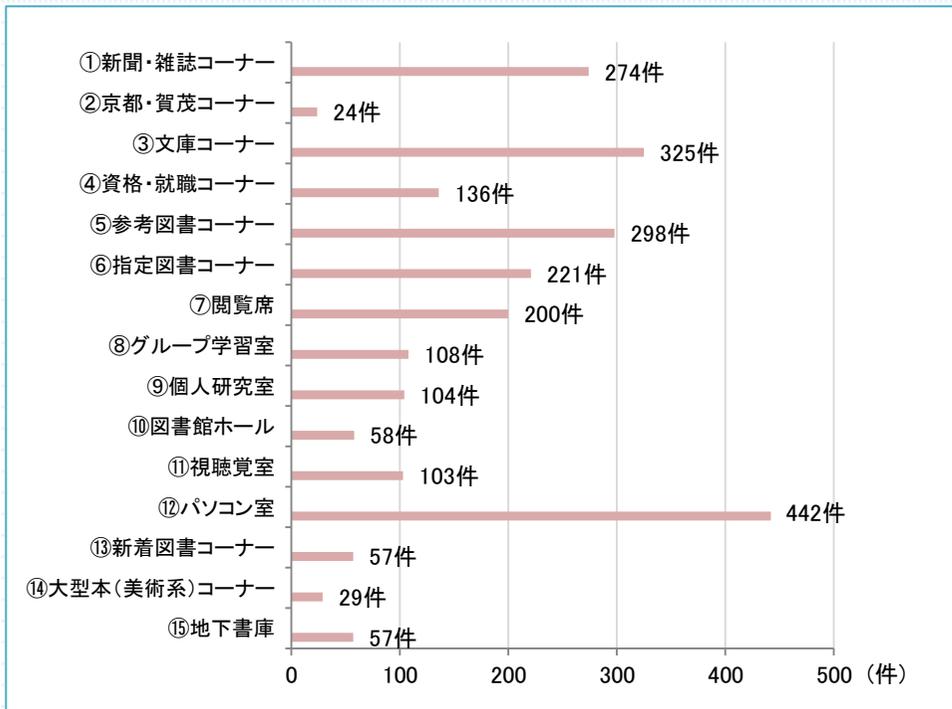
回答者の約4割は週1~2日利用しています。

利用傾向：Q3-1. 図書館を利用する際、滞在時間はどのくらいですか？



15分以上~1時間未満、1時間以上~2時間未満の利用が共に回答者の約4割を占めています。

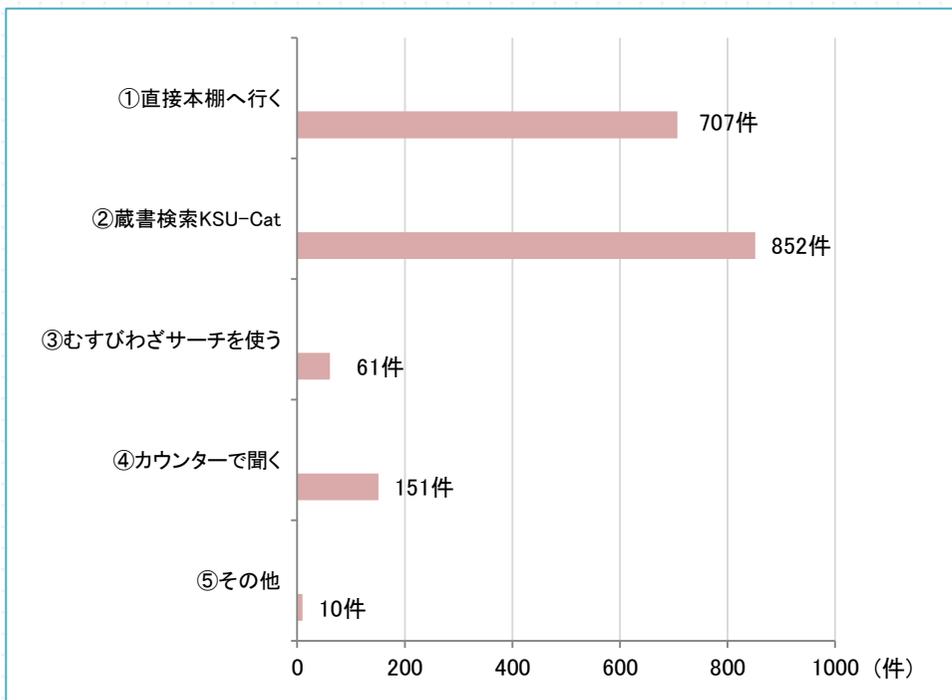
利用傾向：Q3-6. 利用されるコーナーや施設はどこですか？【複数選択可】



「パソコン室」の利用が大変多いです。バスのりばから近い立地条件や、他の情報処理教室の開室時間とは別に、図書館開館時間内なら利用可能であることなどが理由でしょうか。

「文庫コーナー」「参考図書コーナー」などの利用も多いですね。

本の探し方について：Q4-1. 本学図書館の蔵書を探すとき、どうしていますか。【複数選択可】



回答者の6割以上がKSU-Catを使うと回答しています。直接書架に探しに行く利用者も多いようです。

探している本のタイトルなどが決まっている場合は、KSU-Catで検索すると効率良く本を探すことができます。



ご協力ありがとうございました！（図書館利用改善プロジェクト）

2014年度 ブック・ツイート大賞（年間総合）

入賞作品発表！

本学図書館に所蔵されている本の中から、自分の好きなおすすめ本を、200～300字で紹介するものです。応募された作品に対して、図書館利用者による投票が行われ、春学期、秋学期とも得票数上位3名が選出されます。2月には得票数に加えて内容を総合的に審査し、年間を通じての大賞と優秀賞を決定・表彰します。

ここでは年間を通じての入賞作品を紹介します。

※賞ごとに氏名50音順。学年はすべて入賞当時のものです。作品のオリジナリティを尊重し、原文のまま掲載しています。

大賞 法学部4年次生 望月 敬子



いしいしんじ著、新潮社、
2006
(913.6||ISI 2階 文庫)

『トリツカレ男』

「憑りつかれたように」何かに夢中になったことはあるだろうか？
この話の主人公ジュゼッペは、夢中になると寝ても覚めてもそればかり。
まさに「トリツカレ男」なのである。
オペラに三段跳びに探偵ごっこ、昆虫採集にサングラス集め。
憑りつかれたように何かを始めては、いつのまにか別のことに夢中になるジュゼッペ。
そんな彼が恋をしたのは、風船売りの少女ベチカだった。
笑顔の中に悲しみの見えるベチカを想うあまり、ジュゼッペは彼女を笑顔にすることに憑りつかれていく…
恋に憑りつかれたジュゼッペが起こす騒動は、果たして彼女を笑顔にできるのか？
夢中になること、一生懸命になることは素敵なことだと心から思える一冊である。

優秀賞 経済学部3年次生 池上 拓真



金井美恵子著、河出書房新社、1997
(913.6||KAN 2階)

『柔らかい土をふんで、』

〈柔らかい土をふんで、〉との水分をたっぷり含んだ土にぬるりと足を踏み込むという生々しい身体感覚を想起させるような冒頭から、なんと70行ほど読み進めなくては句点が出現しないほど恐ろしく緻密な描写なのになぜか幻想的な文体は、確かに読みづらいが慣れてしまうとおもしろいほど頭にすすり入ってあっさり文意が了解できてしまう。間諜、映画、殺人、洪水、入水、誘蛾灯、洋服、香、襦、裸体、様々な断章が何度も何度も反復する不思議な作品世界で、尋常の小説とは一味違う現代純文学の妙技に酔いしれ、こんな表現があったのか！と、小説でぐらぐら頭を揺さぶられてみるのもこれまた一興。

優秀賞 経営学部4年次生 井上 歩夢



モーム著：土屋政雄訳、光文社、2008
(933.7||MAU 2階 文庫)

『月と六ペンス』

今の人は皆、他人に流され自分を見失いやすくなる病に侵されてしまっている。常にスマホを片手に持ち、空虚な仮想世界に1度きりの貴重な人生の多くを割いている。

そんな病の中にある僕らにとって、この小説は何にも勝る劇薬となるだろう。

この物語の中心人物であるストリックランドという男は、現代日本人の真逆の価値観に生きる究極のエゴイストだ。活字からは「徹底的に自分を生きる！！」と音のない力強い叫びが聞こえてくる。読んでみると魂をビリビリと刺激され、本来の自己を強引に呼び覚まされる感覚を覚える。

読後、僕の胸の中に巨大な竜巻のような力が漲ってきた。皆もこの小説の、最低最悪な男が放つ禍々しい魅力に触れてみてほしい。

優秀賞 経済学部3年次生 堀木 智也



堀井基次郎作，岩波書店，1985
(913.6)|KAZ 2階 文庫)

『檸檬(レモン)・冬の日：他九篇』

「爆弾」。
この小説を一言で例えるならば、この一言に尽きます。
まさに、Simple is the best! そのまま。
しかし、この爆弾には火薬も信管もついていません。そんなものは、必要ないからです。

この小説は、読む者の心に時限爆弾を仕掛けます。
その爆発は、数秒後かもしれない。はたまた、数年後かもしれない。もしかしたら、この世を去る直前になることもあるでしょう。
しかし、その爆発は、確実に読者の心へ彩りをもたらすのです。
偏執狂的とも言える程の想像力と暴力的なまでに研ぎ澄まされた知性によって生み出された、この世で最も美しい時限爆弾。
その爆弾は、あなたの中で一体どのような色彩を見せるのでしょうか？

優秀賞 外国語学部1年次生 米田 未悠



サン=テグジュペリ作；内藤濯訳，岩波書店，1994
(953)|SAI 2階)

『星の王子さま』

”心で見なくちゃ、ものごとはよく見えないってことさ。かんじんなことは、目に見えないんだよ”

自分の星を出て旅に向かった王子。
たくさんの星を巡り、出会いと別れを繰り返した彼は、“愛”を知る。

そして、砂漠でひとりぼっちだった「ぼく」は彼に会った。

SNSが普及した今、私たちは文面で会話するようになった。
それと同時に大切な何かが失われてしまっているように思う。

この本の中で著者サン=テグジュペリは数多くの言葉を綴っている。

あなたも王子と共に今の私たちに失われてしまった大切な何かを見つける旅をしてみないか。



おすすめ紹介

最終回！

学生のみなさんからお聞きした、おすすめの資料を紹介します！



『ディズニー7つの法則：
奇跡の成功を生み出した
「感動」の企業理念』

トム・コネラン著；仁平和夫
訳，日経BP社，1997
(688.3)|CON 3階)

『ディズニー7つの法則』の本はオーランドのディズニーランドを舞台に書かれている本である。「ディズニーの本」だが、ディズニーのために書いた本ではない。

ディズニーでは、来園者をゲスト(賓客)と呼び、従業員をキャスト(出演者)と呼んでいる。本書ではキャストがゲストの心をつかんで放さないために、何をしているかを、全編をつづけて紹介されている。しかも、ストーリー形式で、感動的なエピソードも多く書かれ、とても読みやすかった。「顧客が比べるすべての企業が競争相手」という考え方はまさに競争の実態である。普通なら他社だけが競争相手だと思っているのに、この本を読んで初めて、競争の本当の意味が分かった……。

この本は自分の就職活動にも役に立った。すごく読む価値のある本だと思い、ぜひお薦めしたい。

(外国語学研究科 朱 明祺)※平成27年3月修了

BOOK

おすすめ紹介コーナーは、今回をもって連載を終了いたします。ご愛読ありがとうございました。

むすびわざサーチ 応用編！

2014年10月より運用を開始している「むすびわざサーチ 京都産業大学Discovery Service」(以下「むすびわざサーチ」)、皆さん活用されていますか？

今回はむすびわざサーチの基本的な使い方として、検索対象やアクセス方法、検索方法、一部の便利機能を紹介しました。今回はその応用編として、学修・研究に活用する上で知っておくと便利な機能を紹介します！

◆ 検索結果の絞り込み機能



絞り込みの項目は多くあります。まずはキーワード検索で多くの情報を網にかけ、必要な情報に絞り込んでいくのがむすびわざサーチの基本になります。

むすびわざサーチは収録している膨大なデータから一度に情報を検索するため、キーワードによっては検索結果が多すぎることがあります。そのような場合は、検索結果画面左の「検索結果の絞り込み」から、自分に必要な情報を絞り込みましょう。例として、次のような絞り込みなどができます。

- Web上で本文が閲覧可能な資料に限定する
- 出版時期を指定する
- 書籍のみに限定する
- 書かれた言語を指定する
- 内容の主題(サブジェクト)を指定する

本学図書館で所蔵している文献のみに限定する場合は、提供リソース一覧から「京都産業大学所蔵(OPAC)」のみを選択します。

◆ 関連キーワードの提案



同義、関連する内容であっても、キーワードを変更すると、検索結果は大きく変わります。ぜひ試してみてください。

1単語のキーワードで検索したときに限り、「関連するキーワード」が表示され、検索結果からさらに関連する検索へと広げていくことができます。左の画像では「自由主義」で検索し、同義語として「Liberalism」、上位語として「政治思想」、関連語として「新自由主義」などのキーワードが表示されています。

◆ ツールメニュー



画面は「引用」ツールメニュークリック後の画面。引用の書式がいくつか表示されます。必要に応じて選択および一部加工して活用してください。

検索結果画面でタイトルをクリックした先の「詳細なレコード」画面右にはツールメニューがあります。前回紹介した「マイディスカバリー」機能と連動する項目としては「フォルダに追加」、「ノートの作成」があります。マイディスカバリーのアカウントがあれば、特定の資料をブックマークすることができます。

他に次のような機能があります。

- 印刷 : 印刷用画面の表示
- 電子メール : レコード情報を特定のメールアドレスへ送信
- 保存 : ブラウザの保存機能に適した画面の表示
- 引用 : コピー&ペーストが可能な引用表記用テキストの表示
- エクスポート : 文献管理ツールにデータを保存
- パーマリンク : 資料ごとの固定リンクURLを表示
- 共有 : SNSなどで共有するためのリンクURLを表示

ビブリアたいむず

「ビブリアたいむず」は、図書館サポートチーム「ビブリア」の活動内容やお知らせなどをお届けします！

活動報告

図書館サポートチーム「ビブリア」は、発足から無事3年目を迎えました。2014年秋学期は本のポップ作り(下の画像参照)や、新メンバー加入、サタデージャンボリーへの参加、立命館大学図書館訪問などの活動に取り組みました。

昨年10月には初めてビブリアで新メンバーを募集し、新しく5人のメンバーが増えました。メンバーが増えたことにより活動の規模が少し大きくなりました。そこで、同じように図書館の運営をサポートしている立命館大学衣笠キャンパスの学生ライブラリストaffを訪問し、多くの刺激を受け、現在は少しずつ活動の幅を広げていっているところです。

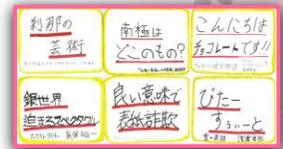
昨年10月25日(土)に行われたサタデージャンボリー*では、京都市図書館(岩倉図書館)とコラボレーションして上賀茂周辺の関係図書を集め、展示イベントを行いました。イベントの来場者は201人で、展示した本の説明や案内など、いつもとは違う活動で新鮮でした。

最後に、2015年2月に図書館3階の業務ブースがビブリアの活動部屋となりました。今後は、ここを中心に活動を行っていきます。これからのビブリアにご期待ください！！

*地域の方々に大学のキャンパスを開放し、学生と地域との交流を深めるとともに、大学の施設、知的財産を用いた様々な学習や体験活動とおして地域のスポーツ、文化の高揚を図ることを目的に毎年開催しています。(http://www.kyoto-su.ac.jp/project/area/sj/sjamboree.html)



サタデージャンボリー展示。コーナーごとに資料を展示しました。



9月・10月テーマ
SPORT & ART

11月テーマ
11(い)い〇〇の日

12・1月テーマ
終と始

2月テーマ
冬~in Winter

お知らせ

各種リクエスト募集

「こんな企画展示、イベントをしてほしい」
「〇〇の分野について、おすすめの本を教えてください」
など、ビブリアへのリクエストを募集しています。

応募は、下記のメールアドレスまで。

lib-sensho@star.kyoto-su.ac.jp

皆様のご意見、ご要望をお待ちしています！

メールには、学生証番号、氏名をお忘れなく！

新メンバー募集

図書館サポートチーム「ビブリア」では、新メンバーを募集しています。

★ミーティングは週に1、2回程度

★本や図書館が好きな人

★月2回は参加可能な方

★クラブや委員会活動をしながらでも活動可能です。

少しでも興味がある方は、下記へご連絡ください！

lib-sensho@star.kyoto-su.ac.jp

ページ作成: 図書館サポートチーム「ビブリア」

旬
な
話題を解説！

今をキャッチ。

キーワード 04

イマジナリーライン (解説: 鈴木 雅恵)



過激派組織ISILの犠牲となったフリージャーナリスト後藤健二さんを追悼するライブと音楽劇が3月1日に大阪でおこなわれた。音楽劇の方は後藤さんと交流があった劇作家の馬場さくらさんが、彼の体験を基に書き下ろした作品である。

タイトルは「イマジナリーライン(imaginary line)」。後藤さん自身が、このセリフを入れてほしい、と注文した一言である。映画やビデオの撮影用語としても使われるようだが、広義の意味では「超えてはいけない想像上の線」という抽象的な概念である。

劇中では、後藤さんをモデルにした「ケンジ」と「アキラ」という二人のジャーナリストが登場する。前者は、紛争地帯の人々の暮らしを報じるための取材許可を得ようと、現地の人を根気強く説得するが、後者はスクープを狙って「イマジナリーライン(超えてはいけない線)」に直面する。後藤氏がこの言葉を入れたかったのは、この線を越えないと取材できないからなのか、ギリギリのところで戻ってくるべき線だからなのか、今となっては不明で、我々の想像に任されている。

今、ISILによる人質事件をどう捉えるかが模索されている。ぜひ後藤氏の著書を読み、世界の紛争の背景や歴史も学び、イマジナリーラインの幅を広げてもらいたい。

(すずき まさえ 外国語学部教員)

もっと知りたいあなたに。 ※鈴木先生ご推薦！



『ルワンダの祈り：内戦を生きのびた家族の物語』

後藤健二著，汐文社，2008 (316.84555||GOT 3階)

アフリカ大陸のほぼ中央部に位置するルワンダ共和国。ツチ族とフツ族という2つの民族の対立が、3か月間で80万人ともいわれるジェノサイドを引き起こすことになった。1996年にこの国を訪れた筆者は、家族を殺されながら、同じ境遇の人々の心のケアをし、憎しみの連鎖を断ち切ろうと苦悩する、ツチ族の女性議員とその息子たちと出会う。

『ダイヤモンドより平和がほしい：子ども兵士・ムリアの告白』

後藤健二著，汐文社，2005 (367.64424||GOT 3階)

ダイヤモンドの産出国として知られる、西アフリカのシエラレオネ共和国。筆者は、内戦の間に反政府軍に襲撃された一般市民と、襲った側の少年兵の双方取材している。本の表紙になっている元少年兵は今では学校に通い、神に赦しを乞う毎日を送っている。彼らに腕を切り落とされた元技師はいう。「許さなければいけない。でも、絶対に忘れることはできない」(p81)。やさしい文章の中に重いテーマがつきつけられる。



『もしも学校に行けたら：アフガニスタンの少女・マリアムの物語』

後藤健二著，汐文社，2009 (302.271||GOT 3階)

2001年、「テロとの戦い」という錦の御旗の元、空爆を受けたアフガニスタン。筆者はタリバン撤退後の首都のカブールに入り、アメリカの誤爆によって自宅を破壊され、兄を殺された少女マリアムと出会う。タリバン時代には女性に禁止されていた学校が再開されることになり、10歳のマリアムは、高い学習意欲を示すのだが……。

伊吹 勇亮 ほか 著

『広報・PR論：パブリック・リレーションズの理論と実際』



「いいとこどり」を目指した教科書

どのような教科書を使うかということには、いつもアタマを悩ませる。教科書は、授業時間に読み聞かせをするために存在しているというよりは(昔は教科書や授業ノートを読み聞かせることを授業と称していた先生もいたそうだが)、学生が授業の予習や復習をするにあたってのよすがとして使うために存在している。そのため、教科書に求められるのは(分野にも依るが)、①読みやすいこと、②理解を促進させるための適切な事例が揃っていること、③学んだ知識が身についているかどうかを確認するための課題が揃っていること、そしてなにより、④当該分野の最先端の理論に基づいた記述がなされていること、である。

筆者の専門である広報の分野において、日本にこれまで存在している教科書は2つの種類に大別できる。1つは、欧米で広く使われている教科書を翻訳したものである。これらは最先端の理論に基づいて書かれており(④)、また章末に課題がついているものが多い(③)。しかし、翻訳調のため文章は読みやすいとは言えず(①)、欧米の事例は日本の学生にとって身近で理解しやすいものであるとは言えない(②)。もう1つは、日本で働く実務家(あるいは実務経験者)が自らの経験に基づいて記したものである。日本語を母語とする人が書いているので読みやすい文章になっており(①)、日本の広報事例の紹介は理解を促進させるのに適している(②)。しかし、実務経験のみに基づいているので様々な状況に応用できるような「理論」のレベルで書かれてはおらず(=応用が利かないため、すぐに時代遅れになってしまう/④)、そのため理論を体得するための課題が設定されていることも少ない(③)。

昨年出版した『広報・PR論：パブリック・リレーションズの理論と実際』の最大の特徴は、広報全般について【研究者の立場から書かれた】初めての本格的

な教科書である、という点である。【研究者の立場から書かれた】という表現には2つの含意がある。1つは、研究者=大学教員というケースが多いことからわかるように、日本の大学で主に日本人学生が用いる教科書であることを意識しているということである。つまり、日本語としての読みやすさに配慮し(①)、日本における近年の事例を豊富に掲載している(②)。もう1つは、日本で用いるということを強く意識しながらも欧米で使われている教科書と同様の知的水準を保っているということである。つまり、それぞれの著者がそれぞれの専門領域における最先端の理論に基づいた記述を行い(④)、さらに章末には理解度の確認に資するための課題を設けている(③)。いわば、教科書として最大限の「いいとこどり」を目指して書かれたのが同書なのである。

同書は(筆者を含め)広報分野における若手日本人研究者5名が、構想2年の後に執筆2年、計4年という長い月日をかけて、①~④を実現すべく議論に次ぐ議論を積み重ねて書き上げた教科書である。幸い、昨秋の筆者の授業では、受講生諸氏にも好評をいただいた。今までにない本である。教科書ではあるが、受講生でなくてもこの分野に興味関心があれば、ぜひ手にとっていただきたいと願っている。

(いぶき ゆうすけ 経営学部)



有斐閣，2014
(674||IBU 3階ほか)

Information

◆図書館展示企画1「キラリ☆文化クラブ 文化団体連盟による展示と発表会」

今回は文化団体連盟公認団体「書道部」、「漫画部」と図書館のコラボ企画です。書道部は大きな掛軸に著名な書画を手本に書き表した作品を、漫画部は絵ができるまでのメイキングの様子や漫画を制作する際のネームの様子が分かる作品などを展示します。また、それに関連する図書館所蔵の資料も併せて展示します。日本が世界に誇る、「書道」、「漫画」の文化にぜひ触れてみてください。

さらに「落語長屋」の漫才・コント、「ギタークラブ」の独奏・重奏イベントなども実施します。ぜひお越しください！

◆図書館展示企画2「本と人が集う場所 ―これまでの図書館、これからの図書館―」

「図書館」という言葉を耳にして、皆さんはどんな場所を思い浮かべるでしょうか。図書館を利用する頻度や使い方によって、思い描くイメージは異なると思います。この展示では、図書館と書物について、その起源から近年のめざましい発展に関する資料をご紹介します。展示をご覧になり、図書館に興味を持っていただけたら、ぜひ、実際に利用してみてください！新しいことを学ぶ喜びや、自分で調べる楽しさをきっと味わうことができます。

◆もう参加した？図書館の利用ガイダンス

本棚をひたすら眺めても、目当ての本が見つからない！そんな経験はありませんか。図書館の本の並びは一般的な書店とは異なりますので、慣れないうちは戸惑うことがあるかもしれません。図書館では、時期やテーマに合わせて図書館利用ガイダンスを実施しています。本や情報の探し方はもちろんのこと、6月にはレポートや論文を上手に書くコツを知りたい学生を対象にした「文章力up実践講座」の実施を予定しています。ぜひご参加ください。

【新入生対象：4～5月、ゼミクラス対象：授業期間、文章力up実践講座：6月】

※上記ガイダンス予定は変更になることがあります。

◆「第11回図書館書評大賞」の原稿を募集します

本学図書館が所蔵する図書の中から自分の興味ある図書を読みこなし、その内容を簡潔にまとめながら、図書の魅力や評価したポイントなどを表現する書評を募集します。奮って応募してください。

※各イベントなどの詳細は、図書館Webサイト、POST、各種掲示などを確認してください。

編集後記

磯谷：

図書館の1万日を振り返り、これまで本当にたくさんの人に支えられて、歴史を積み重ねてきたのだと感じます。皆さんぜひこれからも図書館を利用してください。それこそが次の1万日に向けて、図書館発展の大切な原動力です。

鈴木：

ときどき、「将来のやりたいことが見つかりません」といった相談を受けることがあります。そんな時はいつも「焦る必要はない」というような話をしています。今は、来るべき時に備えて自分の内側に力をため込む時期です。勉強、クラブ活動、恋愛……一生懸命取り組みましょう。自分のペースで見つけていけばいいんですよ。

北村：

『Lib. 京都産業大学図書館報』は1974年6月に創刊し、昨年40周年を迎えました。実は開館1万日を迎えた現図書館よりも歴史があるんですよ。創刊号からを綴ったファイルが図書館2階にありますので、ぜひこちらも手に取ってみてください。

中谷：

ようこそ京都産業大学図書館へ。資料や情報もたくさんありますし、利用方法も利用者の数だけあるはずです。図書館のことを知り、もっともっと図書館を利用してキャンパスライフに役立ててくださいね。

松村：

京都産業大学創立50周年の年、図書館は開館1万日を迎えました。現在図書館が建っている場所は、特集ページを見ていただくと分かるように元は何もない広場でした。建物や蔵書に蓄積された歴史のことを思うと感慨深いものがあります。

寄贈一覧（教員文庫）

寄贈順（2014年9月16日～2015年3月23日）敬称略

寺地 徹（総合生命科学部）

『遺伝学』化学同人、2007（執筆）

三浦 信（名誉教授）

『マーケティング学説史（増補版）』同文館出版、2014（執筆）

長谷川 晶子（外国語学部）

『バタイユとその友たち』水声社、2014（執筆）

中井 透（経営学部）

『中小企業経営入門』中央経済社、2014（執筆）

永田 和宏（総合生命科学部）

『歌に私は泣くだらう：妻・河野裕子闘病の十年』新潮社、2015

『人生の節目で読んでほしい短歌』NHK出版、2015

『作歌のヒント：NHK短歌』NHK出版、2015

中西 佳世子（文化学部）

『悪夢への変貌：作家たちの見たアメリカ』松籟社、2013（執筆）

『アメリカン・ルネサンス：批評の新生』開文社出版、2010（執筆）

川北 靖之（法学部）

『日唐律令法の基礎的研究』国書刊行会、2015

田中 寧（経済学部）

『Comparing post-war Japanese and Finnish economies and societies：longitudinal perspectives』Routledge、2015（編著）

岩崎 周一（外国語学部）

『Stände und Staatsbildung in der frühneuzeitlichen Habsburgermonarchie in Österreich unter der Enns 1683-1748』Selbstverlag des NÖ Institutes für Landeskunde、2014

